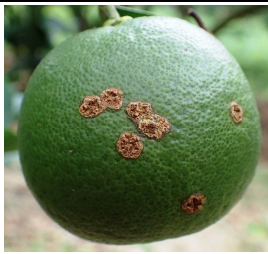


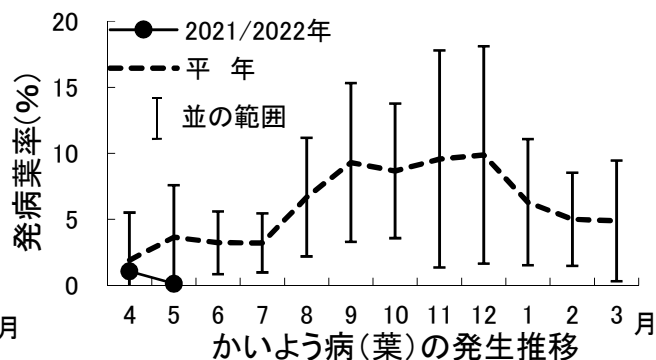
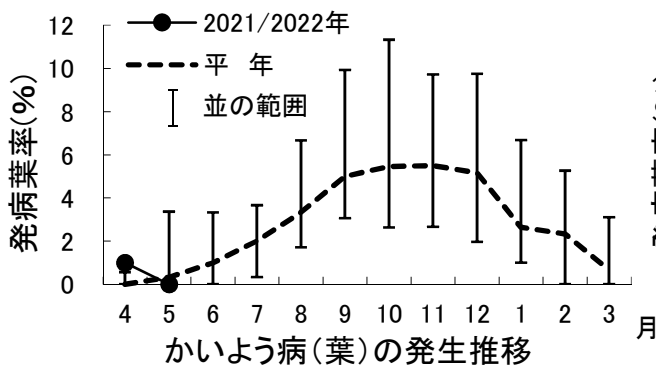
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
		6 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み	

調査結果

(発病葉率)

〈中央値〉

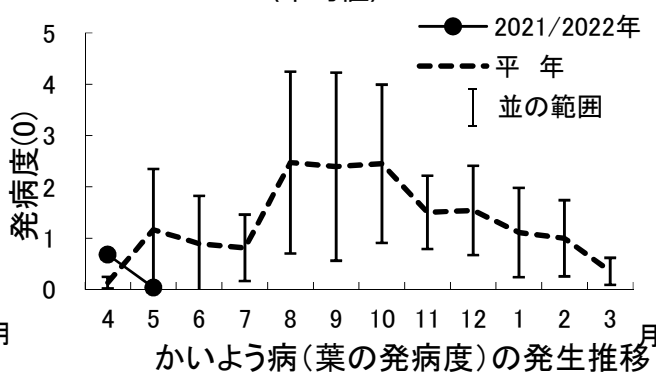
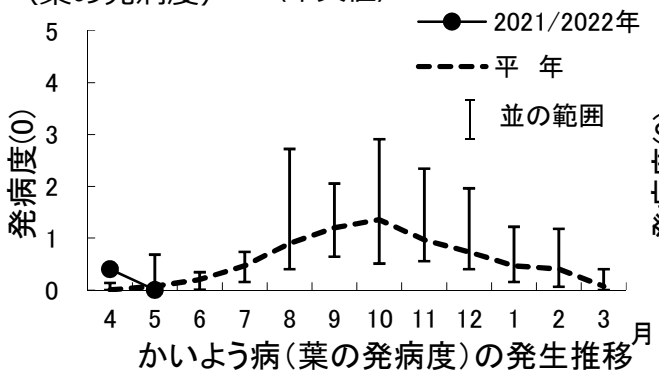
〈平均値〉



(葉の発病度)

〈中央値〉

〈平均値〉




・ 発生ほ場率：40% (平年値：64.3%)

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

被害葉→



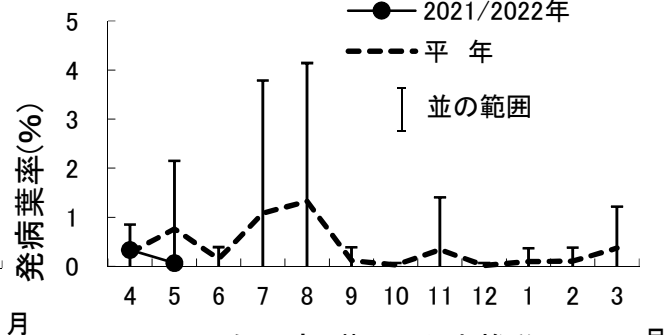
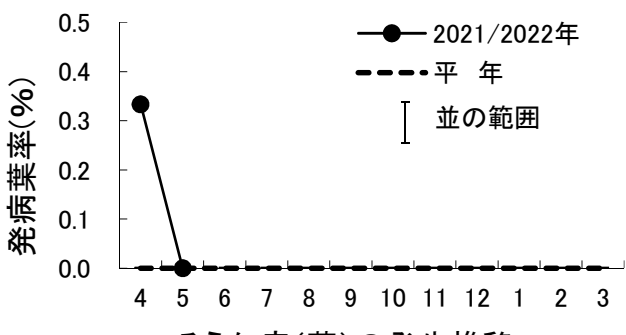
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島	
病害虫名	② そうか病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)			並
予報	5 月からの増減傾向			↓
		6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		今後 1 か月の降水量が平年並か少ない見込み		

調査結果

(発病葉率)

〈中央値〉

〈平均値〉



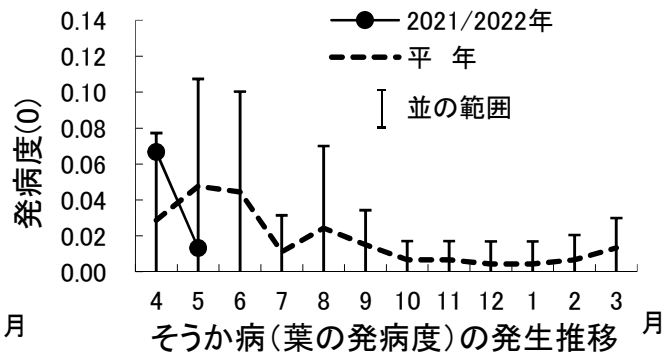
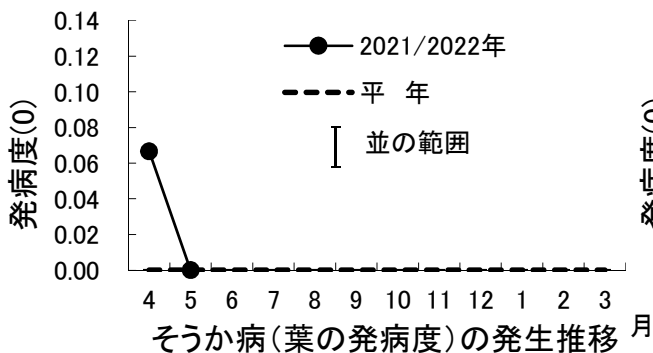
そうか病(葉)の発生推移

そうか病(葉)の発生推移

(葉の発病度)

〈中央値〉

〈平均値〉




・ 発生ほ場率：20% (平年値：26.2%)

防除のポイント

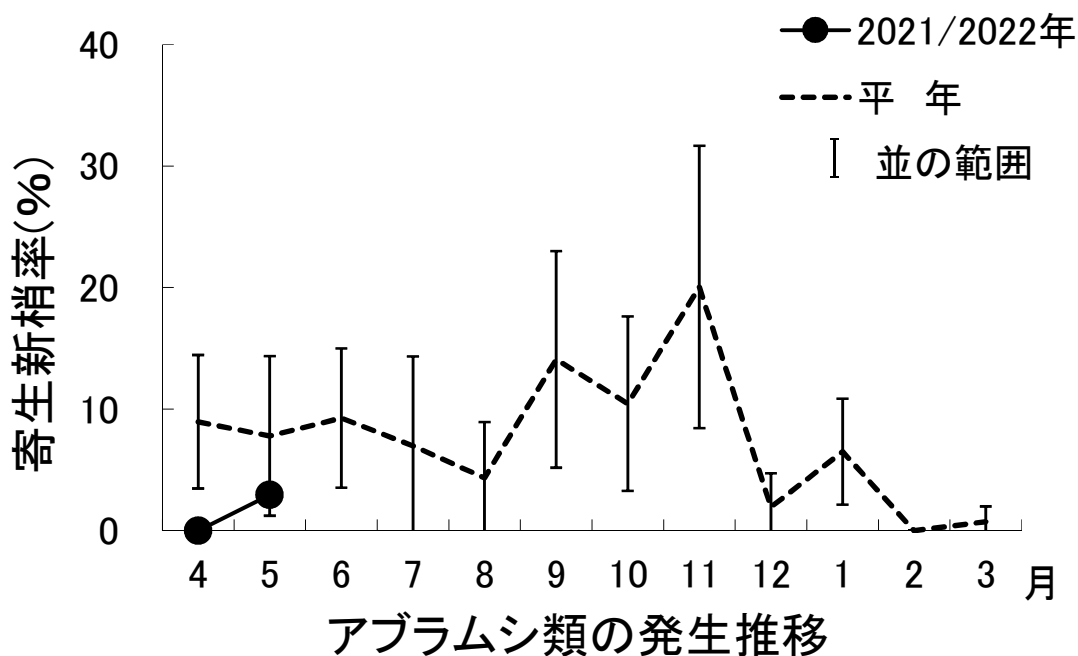
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	—	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果



- ・ 発生ほ場率：20%（平年値：41.7%）
- ・ 1圃場のみ新梢発生していた

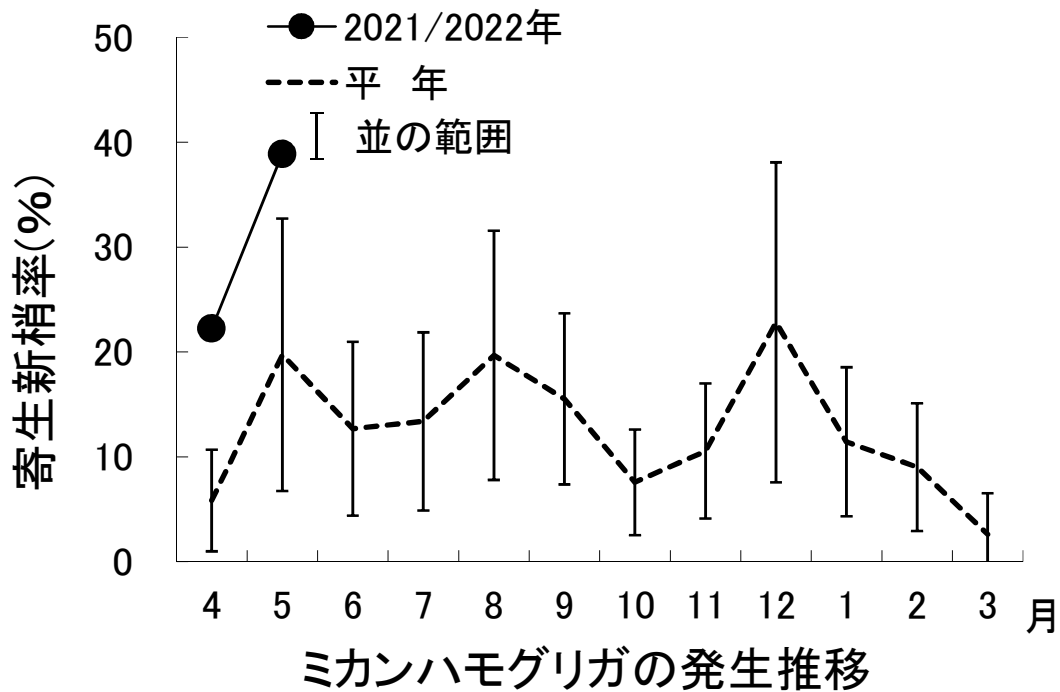
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	—	
予報	5 月からの増減傾向	↘	
	6 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	


調査結果



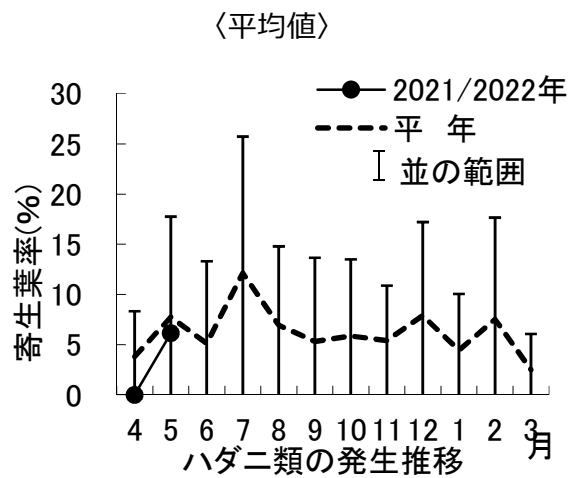
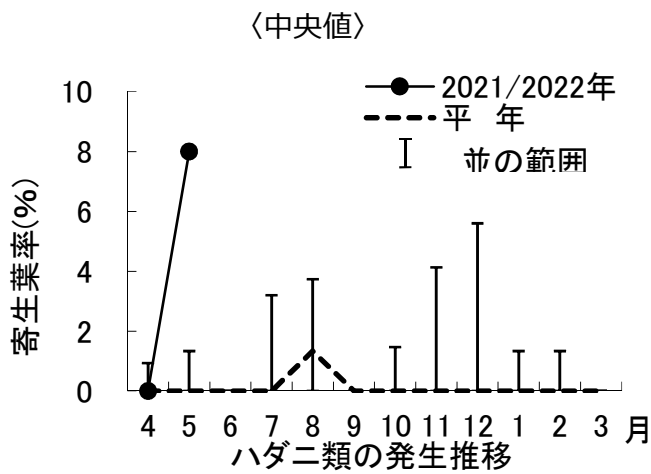
- ・ 発生ほ場率：20%（平年値：66.7%）
- ・ 1圃場のみ新梢発生していた

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
		6 月の発生量（平年比）	並
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果



・ 発生ほ場率：80%（平年値：35%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状